
living corpse

RYUN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

l i v i n g c o r p s e

【Nコード】

N 2 0 3 8 J

【作者名】

R Y U N

【あらすじ】

俺は一体何をしているんだろうか。俺は一体、何がしたいんだろうか。何が望み？何が不満？ああ、俺自身が分からない。——思春期高校男子の、悩めるLifeストーリー。ブログにも書いたものです。ご了承ください

（前書き）

意味、分かっただけなら嬉しいです*

俺はこんなところで何をしているのだろうか？

頂上につくことだけを考えて、必死にペダルを踏んでいる。どこまで上ったか分からない。この上り坂が、いつ平らになるのかも分からない。ただひたすらに、意味も分からないまま、自転車でのこの上り坂の頂点を目指していた。

——俺は一体、何をやっているんだ…。

*

「沢村。進路希望が白紙だったのはお前だけだぞ」

放課後の教室に呼び出され、俺は担任と二者面談をしていた。彼は、「呆れた」とでもいうように、それを溜息に出した。

——大人の、この偉そうな態度がムカツクんだ。

大して偉くもないくせに、何威張ってんだよ。馬鹿じゃねえの。担任の顔を見ていると、イライラしてくる。…折角俺の好きな歌聴いてんのに…台無しだ。俺はポケットに突っ込んだ手で、同じくポケットに入っているウォークマンの操作をした。

あいつの声なんて聞こえないくらい、音量デカくしてやる。

そうしてやると、俺からみればただ彼は口パクしているようにしか見えなかった。それがなんとも滑稽に見えて、笑ってしまいそうに

なった。けど、ここで反抗した自分は虚しい、笑う自分は虚しい、と心のどこかで呟いていた。そう思う自分がいることに腹を立て、担任が話している途中に机を蹴った。進路希望の紙ばかり見ていた彼は驚き、俺を凝視した。そんな担任の顔にも腹が立ち、思いつきり睨んでやった。担任は少し怯むものの、俺のウォークマンの存在に気づき、眉間にしわを寄せた。

「お前は…俺が話しているときに、何をしてるんだ！」

机を掌でバン、と叩くが、俺は怖くもなんともなかった。しかし、「お前の為に言ってるのに…」という声が聞こえた瞬間、俺は立ち上がり椅子を倒してやった。「『お前の為に』？ふざけんなよ！」と、言ってやりたかった。思うだけで実行できない自分の弱さに舌打ちをする。

そして、俺は呼び止める担任を背景に教室を出て行ったのだ。

*

だけど、認めたくなかった。こんな辛い上り坂を上ってたって、認めたくなかったんだ。偉そうに俺に説教たれる担任も、心のどこかで正義ぶってる俺自身も。みんな、偽りだと言ってほしかった。

「うわっ！」

もうこの先こぐのは無理だと俺の足が悲鳴をあげ、自転車は横に傾いた。

そして、倒れた。

「…くそ…」

何が認めたくなかった、だよ。そうやって反抗しているせいで、俺は今どーなんだよ。見てみるよ、この上り坂。この先苦勞することが、こうして目に見えてんじゃねえか。担任だつてきつと、俺みたいな人間とは反対のやつなんだ。教師になるために勉強して、バリバリきれいな道歩んでんじゃねえか。そんなやつが、生徒に偉そうにして何が悪い。それに勝手に腹立てて、椅子や机蹴つてかつこつける俺はどうなんだよ。低俗のくせに威張つて、俺こそ腹立たしい人間だ。

俺は倒れた体を仰向けにして、大の字になつて空を仰いだ。そんな大らかな空を見ていると、自分が馬鹿らしく思えてきた。そして、自然と涙が頬を伝つた。それは、少しの髪の毛を濡らした。なんて泣いたのかは分からない。けど、自分のあの態度に悔やんだことは確かだった。

「俺でも…やり直せるかな…」

ぼそつと呟いた一言は、誰にも届かない。その呟きは、俺だけが知っている。

俺は涙を拭い、再び自転車をこぎ始めた。

なんだつてんだよ、こんな坂。落とし前は、俺が自分でつけてやるーじゃねえか！！

そしてまた、必死に息を切らして上つてゆく。今度は、ただひたすら上ることに必死になるのではなく、今後のことを考えていた。

すると、頂上が見えた。俺はほっと一息つき、そこまで全力で上つた。

上りきつた、と思つた頃には仰向けに倒れていた。ああ、俺上れた

んだ…と思った瞬間、思考回路が停止した。

けど、微かに声が聞こえた気がした。

”まだやり直せるよ”

と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2038j/>

living corpse

2010年10月10日05時49分発行